

## 令和3年度第2回 犬山市総合教育会議 会議録

日時：令和3年11月24日（水）午後2時

場所：犬山市役所 5階 503会議室

### ◆出席者

市長 山田拓郎

教育長 滝 誠

教育委員 教育長職務代理者 奥村康祐 委員 小倉志保 委員 堀 美鈴  
委 員 渡邊智治 委 員 木澤和子

アドバイザー 県立犬山南高等学校長 森也寸司

### 事務局 【経営部】

鈴木経営部長

企画広報課

井出課長

高橋課長補佐

小枝統括主査

### 【教育部】

中村教育部長

長瀬子ども・子育て監

記録者 企画広報課 小枝統括主査

傍聴者 0名

---

### ◆次第

1 開会

2 あいさつ

3 議題

・令和4年度予算について

・犬山の教育施策 2021 の成果の検証と 2022 年以降の方向

4. 報告

・教育大綱について

5 自由討議

6 その他

7 閉会

---

## ◆会議要旨

## 議題「令和4年度予算について」

## 【主な意見】

- ・子どもに関わる施設は老朽化が進んでいる。改修のための予算はできる限り配慮していきたい。必要性が高いものについては、要求することが重要。課題の洗い出しをお願いしたい。
- ・老朽化に慣れてしまって少しのことは見過ごしてしまう。早い段階で情報共有した方が良い。
- ・民間を含めて、専門の立場からのチェックできるよう対応を考える。
- ・素人、専門的見地、両面が必要。

## 議題「犬山の教育施策2021の成果の検証と2022年以降の方向」

## 【主な意見】

- ・教育から犬山市の人口が増えないか。
- ・少人数学級や2学期制、1人1台タブレット導入も早かった。そういったところをもっと強化。（幼保、小学校、中学校、高校の縦の連携を上手くつなげる、スクールバス、勉強したい子どもへの機会、学校に戻りたい子や勉強をしたくてもみんなとできない子に対する施設や人的なもの等）
- ・「犬山で勉強して良かった」「犬山の学校に通って良かった」と思うまちになると良い。
- ・検証については、過去に犬山市の教育について検証した研究者に依頼してはどうか。
- ・教育委員が研鑽していくための費用について、市からご協力いただきたい。
- ・教育委員会基本条例の一番重要な理念は「考えて行動する教育委員会」。そのために必要であれば予算を組めば良い。
- ・専門的な立場からの検証も重要。読解力の向上に特化した方向性の検証を、（ミニ）シンポジウムと言う形で、来年度に実施したい。
- ・検証の中身や今やっていることの中身が発信されていないといけない。
- ・危機管理を意識していただきたい（平生の管理、何か起きたときの対応）。
- ・見える化を進めて欲しい。
- ・学校、子ども未来園で進められている既成概念に囚われないで欲しい。

## 報告「教育大綱について」

## 【主な意見】

- ・危機管理に関する何らかの記述が必要。

## 自由討議

## 【主な意見】

- ・教育現場の中で必要とされている人が、どのくらい足りていないのかを知りたい。
- ・障害のある子たちについて市民みんなが理解できると、優しいまちになるのではないか。
- ・定期テストや校則などは大人が考えているものではないから新しいものが生まれる。
- ・先生が先生であるために。別の業務を補うことも大事なことはないか。
- ・犬山市にいる子どもたちが、自分の力で選択できるようにしてあげたい。
- ・保育園に新しいことを取り入れるためには、早く民間に入ってもらう方が良いのではないか。
- ・保育を良くするための、働き方改革、体制づくりについて、提案をさせていただきたい。
- ・大学入試でも英語の割合が非常に高い。読解力とともに英語教育も大事にさせていただきたい。
- ・英語ができる力も含めて、読解力を付けておくことがそこにつながる。基礎教育においては、きちんと土台を作ることが大事。

## ◆会議録

<p>司会 (井出企画広報課長)</p>	<p>皆さん、こんにちは。 定刻となりましたので、ただいまより、令和3年度第2回犬山市総合教育会議を開催いたします。 犬山高校の石田校長先生におかれましては、事前にご欠席との連絡をいただいております。 開会に合わせて、1点お願いいたします。 本日の会議は、犬山市総合教育会議運営要綱第4条に基づき公開としています。 また、インターネット映像配信サービス「ユーチューブ」で中継も行っていますことを、ご了承ください。 それでは、山田市長からごあいさつを申し上げます。</p>
<p>山田市長</p>	<p>皆さん、こんにちは。 皆さんもいろいろ情報が入っているかと思いますが、弥富で子どもが子どもを刺して亡くなったという話がニュースで出ています。あとの議論にしても良いのですが、冒頭でお願いしておきたい。 学校だけの話ではなくて、教育委員会が所管している事項というものは、歴まち、文スポ、子ども未来があります。その全ての分野における危機管理の意識を強く意識していただきたい。教育委員会の皆さんも、独立した機関として危機管理を強く意識していただかないと。「各課がやっていること」ではないです。皆さんも当事者です。教育委員会が所管するすべての事項、事案、これについての危機管理の意識、皆さん意識していただいているとは思っておりますが、改めてその点をお願いしていきたく思っております。当然、私もこの行政を扱う身として、危機管理というところを今まで以上に意識しないといけないと思っております。先日は、トレッキングに出た引率の方が行方不明になり、亡くなるということもございました。委託しているから委託先の話だということではなくて、我々もそこで考えていくことはあるなと思っておりますので、是非その辺も皆さんも強く意識していただきたいなと思っております。危機管理については、「そこにどのような危険やリスクがあるか」ということを事前に予測して、事前の備えをできる限りやっていくということです。事前の備えによって、危険を防いだり、危険を最小限にとどめたり、そのようなことができると思うので、それをどうやって想像力を活かしながら、事前の備えをしていくのかということがまず一つだと思います。とは言っても、何か起きてしまうことはあるので、何か起きてしまったとき、当然命が大事ですので、命を最優先にしてその場の臨機応変な対応をどのようにしていくのかということです。もう一つは、対外的な説明というものは求められてくるので、リスクマネジメントというところで、情報の発信、情報の共有が非常に重要です。そういう意味で、危機管理意識というものを、教育委員の皆さんだけではなくて、我々も意識しつつ、皆さんも当事者であるという意識で、危機管理の徹底を一緒に進めていけたらと思います。 その点をよろしくお願い申し上げます、私の冒頭のあいさつとさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p>
<p>司会 (井出企画広報課長)</p>	<p>続きまして、滝教育長、ごあいさつをお願いします。</p>
<p>滝教育長</p>	<p>皆さま、改めまして、こんにちは。</p>

	<p>今日の朝はこれまでにない、風の冷たい寒い朝を迎えました。北海道や、本州の日本海側ではずいぶん雪が降っているようでして、いよいよ冬がやってきたなど実感しております。</p> <p>先週以来、羽黒小、東小の学校訪問、教育委員と市民との意見交換会、定例教、そして本日の総合教育会議。教育委員として勤めていただく多忙感と同時に、充実感をお感じになっていただけているのではないかなと思っていますところでは。</p> <p>森校長先生におかれましては、今の中学校2年生の子どもたちの入試制度が大きく変わる事、あるいは公立高校そのものの在り方について検討をしていただかなくてはならないという大変な時期です。そんな中、オブザーバーとして参加いただきましたこと、誠にありがとうございます。</p> <p>本日の総合教育会議ですけれど、犬山市の教育行政、教育施策について、市長の願いと思い、それと教育委員会という組織としての願い、思い、それを協議、調整し、方向性を共有していこう、そして一致団結してその執行にあたるように、ということがこの会議の主な狙いです。手段はさまざまあると思いますけれど、犬山の子どもたちのため、犬山市民のためにといった目的に大きな違いはないと思っています。ここでの議論が夢と希望に満ち溢れた犬山の教育、まちづくりにつながることを強く願いまして、教育委員会側からの挨拶とさせていただきます。</p> <p>本日はどうぞよろしくお願ひいたします。</p>
<p>司会 (井出企画広報課長)</p>	<p>議事に入る前に本日の資料の確認をさせていただきたいと思ひます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次第</li> <li>・名簿</li> <li>・資料1「総合教育会議 議題案」</li> <li>・資料2「教育大綱の検証について」</li> <li>・参考資料1「令和4年度 教育関係主要事業」</li> <li>・参考資料2「犬山市教育大綱」</li> </ul> <p>以上となります。</p> <p>資料はお揃いでしょうか。</p> <p>それでは、議事に移らせていただきます。</p> <p>これ以降は、要綱第3条に基づき、山田市長に議事進行をお願いします。</p>
<p>山田市長</p>	<p>それでは、私の方で議題を進めさせていただきます。</p> <p>本日の議題の一点目は「令和4年度予算について」となっています。お手元の参考資料1「令和4年度教育関係主要事業」を踏まえながら、「予算」ですので、令和4年度の教育委員会の所管する予算全般について、皆さんから、「こういうことをもっと予算的にも充実した方が良いのではないか」、逆に、「こういうものは無駄だから見直した方が良いのではないか」など、予算編成に関わることを忌憚なくご意見いただけたらと思っています。</p> <p>この件について皆さんからご発言はありますでしょうか。</p>
<p>出席委員</p>	<p>(意見等なし)</p>
	<p>なければ私の方で予算編成していきますけど。よろしいですかね。</p> <p>逆に私から申し上げたいのは、特に子どもに関わることを言ひますけれど、子どもに関わる施設は、施設によっては老朽化が進んでいるので、我々としては、施設の改修のための予算は、できる限りそこは配慮していきたいという思いを持っています。改修すべき箇所については、特に現場になると思ひますが、もちろん何でもかんでもできるわけではありませんが、必要性が高いものについては、まず予算要</p>

	<p>求していただくことが重要です。なんとなく予算の枠に囚われて、勝手に自分たちでなかったことにしてしまうと、適切な予算編成ができません。何でもかんでもやるとは言いませんけれど、できる限り課題の洗い出しと言いますか、そのようなことをお願いしたいなと思っております。特に現場の実務担当者と言いますか、そこからいろいろ情報をあげてもらいたいと思っておりますので、その点だけはよろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>オブザーバーで森先生がいらっしゃいますので、何か予算編成についてご意見等があればせつかくなので。</p>
森犬山南高等学校長	特にありません。
堀委員	すみません、良いですか。
山田市長	はい、堀委員。
堀委員	<p>私、ずっと保育に関わることをやっていて、子ども未来園はとにかく老朽化して、あまり良い状態ではない。それに慣れてしまって、少しのことは見過ごしてしまう。そして大きくなってから、「大変だ」ということになるので、少し危ないところを見る目と言うか、どこも古いのでそれに目が慣れてと言うか、「これくらいいいや」という感覚がすごくあるような気がします。大事になってからでは遅いので、なるべく、「まだ良いけど」というくらいのときに、一応なんとなくみんな情報として知っていたほうが良いのかなということ、現場にいたときに感じました。</p>
長瀬子ども・子育て監	分かりました。
山田市長	それはそういう立場でチェックするよう努力します。
滝教育長	<p>良いですか、今の。</p> <p>小中学校については、1年間のうち1回は学校訪問という形で学校を回って、そのときに部長、課長等は校内を回って、施設設備の点検を行う機会があります。それで発見ができるのですが、子ども未来園なんかは、今のところそういう機会がない。毎年すべての園をということは難しいかもしれないですけど、小中学校だけではなくて、子ども未来園についても、1年に2～3つとか限られてくるとは思うのですが、是非そういう機会を作って、教育委員の目から見ていただいて、「ここはいいか」「あそこはいいか」という機会があると、今、堀委員がおっしゃったようなことが少しでも早く発見できて、対応できるのではないかと思います。</p>
山田市長	<p>どちらにしても、素人が見て「ここは大丈夫か」というものに対して、それが良いかどうかを専門的な見地から見極めていく、やっぱり両面で必要。素人が見るのも実は大事で、そこから「これはいけない」と気づくことも多々あるので、それは、今の教育長の指摘も踏まえて、専門的な見地での立場でも見るということも、両面でやっていけるよう事務方としては進めて。洗い出しが重要。全部ができるとは言わないけれど、その中で極力予算にも反映できればと思っています。それを上げてくれないことには、こちらでも予算を組みようがないので、それだけはお願ひします。</p> <p>はい。では令和4年度の予算については、これで議題を終わらせていただいて、次に「犬山の教育施策2021の成果の検証と2022年以降の方向」について。委員の皆さんからも議題としてどんなテーマで意見交換しようかといろいろと協議していただく中で、出ていると思ひますので、そういったことも含めて、今後の方向性ということですから、非常に重要だと思ひます。これについて、議題を進めていきたいと思ひます。</p> <p>これについては、渡邊委員から説明をお願いします。</p>
渡邊委員	この総合教育会議の議案を議論するとき、1年教育委員をやらしてもらった中で、

自分が思ったことを、書き述べたらこのようになりました。もともとこの教育委員、公の立場に自分が入るなんて夢にも思っていなかった、絶対に関われないと思っていた中から、こういう機会をいただいたので、普段、思っていたこと、外から見て学校教育に対して思ったこと。

まず一つはいろいろ犬山市というところが、もともと昔からメディアに取り上げられているということをしごく思っていたところです。犬山市は、自分で住んでいても良いまちだと思う中で、何か自分がさせてもらおうとなったときに、教育というところから犬山市の人口が増えないかな、教育というものを一つの柱にして、行政が何かできることはないかなという思いで、これを書き出したのがスタートになります。実際、学校訪問や定例教に参加させていただく中で、少人数制の利点、2学期制の利点。現場としてはなかなか「そうではないよ」という部分もあって、その両面から検証していく中で、もっと、犬山市に住んでいる人、他市他町の人に知ってもらえるものがいっぱいあるのだなということに改めて思ったところです。

実際、資料に書いてある1番、2番の少人数制や2期制についてというところは、この前の定例教でも、校長先生の話をついたりして、改めて自分の中では「良いな」と。時間をかけて子どものことを見られることは「良いなあ」と思っている中で、もっと、3番で、時代が変わっていく中で、1人1台のタブレットも他市に先駆けて導入していますし、そういうものをもっと強化。

実際、小学校から中学校に上がっていくときの1日入学など、少し具体的な話になると、小学校とか中学校、先ほどの子ども未来園と小、中の施設の件もそうですけれど縦の中で、もっとというと高校入試が変わっていく中で、例えば「犬山南高校ではこのようなことをやっていますよ」ということが、中学校へ出前授業などをやって、もっと子どもたちにアピールしていくなど。もしくは、今、中学校の教科担任制ということが考えられている中で、小学校の教科の中に中学校の先生が入っていけたらどうかという。それもなかなか他市町にはないもので、もっとというと小学校、幼稚園も同じように、大きい視点では、縦の連携というものをうまく繋げていけると良いかなという視点が一個あっても良いのかなと。

もっと細かいこと、例えば去年の夏のニュースのところで、通学の途中で塩飴キャンデーを配っていますというようなものがあつたときに、もっともっと子どもたちが通いやすいように、難しいかもしれませんが、スクールバスだったり。

例えば今、学び場「みらい」というものがある中で、学力的な部分だったり生活的に苦しんでいる人たちに補習という形で同じ教育の平等というものがあれば、もっともっと勉強したいなという子たちに対する機会を増やす場所であったり。

あとは、ゆう・ゆうが今あるように、そこにおいても学校に戻りたい子、勉強をしたくてもなかなかみんなと一緒にできない子に対する施設だったり人的なもの。例えば、塾の先生は昼間暇をしている、時間が空いている中で、もっと使ってもらえたら良いかなということを感じているところがあります。

良い仕組みを犬山は持っているのだから、それを少し広く、広報ではないですけども、先生も含めて現場とか行政も増やしていけたら良いなという。みんなが「犬山で勉強して良かったね」、「犬山の学校に通ってよかったね」と思うようなまちになれば良いなと思いで書きました。

山田市長

ありがとうございました。

思いにはついて聞かせていただきました。そのほかに、今後の犬山市、これまでの検証も含めてなので、「こういうところはもっと工夫が必要ではないか」、「これからはもっとこういうところ力を入れていった方がいいのではないの」、「逆に「こ

	<p>これはもう方針転換した方が良いのではないかと、そういう意見があると、ここで議論ができるのではないかなと思います。</p> <p>できれば、この総合教育会議は、教育委員会と私の意見交換の場なので、個々の意見は定例教で議論していただいて、教育委員会として皆さんの委員間の討議によって方向性を出して、それをもって私と意見交換をしていくということがこの会議の前提だと思います。ですので、皆さんが教育委員会としてコンセンサスが出たもので意見交換ができれば理想ですけど、なかなか理想通りにはいかないの、自由にご意見をいただければと思います。せつかくの機会ですので、皆さんの忌憚のないご意見をいただければと思いますがいかがでしょうか。これまでの検証を踏まえて今後について。</p> <p>はい、奥村委員。</p>
奥村委員	<p>先程の予算のところでお話しようかどうか迷っていたのですが、順番が逆になるとどうかと思って、なかなか言えなかったのですが、こうした今の渡邊委員や、例えば、城東中学校、小学校を一つの新たに作る計画、そういうものを踏まえてですが、犬山の今までの施策という、少人数学級についてはこういうふうに良かったとか、犬山市で過去何年も前にたくさん行われた施策について、実際にこういう研究者が本を出されて、犬山市の教育は本当にどうなのかという、実際の検証がされています。</p> <p>ですので、一つはこういった検証をそういった方々に、私たちが検証をうんぬんといくら言っても、比べものや指標がないので、以前にされた検証のものと今を比べたら、できているということが分かる、あっているかが分かるので、そういったことをされると良いかなと。</p> <p>我々がこういったものを見つけるために、今後の研鑽をしていかないといけない。例えば、視察に行く機会は3年に1回と非常に少ない。ですから我々が研鑽をしていくための費用などが全くない。例えば私、この本も実費で購入しています。こういったことを行う。例えば、教育支援の我々が読むにあたって配布していただく、そういう研鑽のためのものが全くないので、「それに対してどうなのか？」と言われても、なかなか難しいものだと思います。そのために少し費用をいただける、もしくは研鑽の何か。新しいものを整備するにも新しいところはどうか。そういうことを知らずに、ただ「悪い」と言っているよりも、良いところ。例えば2学期制に関しても、先日、定例教でも皆さんで2学期制について話をしました。そういった中でもいろいろ、「学期制自体がどうなのか」、「定期テストがどうなのか」。その先進的な事例を見に行くにも、3年に1回しかない。それでは情報化の中でもICTを最先端で使っているところに、今、見に行くことはできない。ということもやはり問題かなと思います。そういったものを取り入れるということにも市からご協力をいただけたらというのが私からのお願いです。</p>
山田市長	<p>非常に良い指摘だとは思いますが。その話を予算の時に聞きたかった。要するに、それが予算のところの議論。さらに言うと、重要なこと、教育委員会の基本条例の一番重要な理念というものは、「考えて行動する教育委員会」です。私は皆さんに委員をお願いして、皆さんがどういうふうを受けてもらったかはあれですが、「少し大変だな」と思いながらやられているかもしれないけれど、皆さんが犬山の教育政策というのを訂正していく、そのエンジンになって欲しいということが私の期待です。そのために条例を作りました。考えて行動する教育委員会になるために、今、奥村委員が言ったことは非常に重要で、もしそのための必要な経費があるのであれば、それは予算を組めば良い話です。どれだけでも組めるわけではないです。議会</p>

	<p>だって政務活動費があって、議員の報酬以外にそれを調査・研究するための費用があります。それも一方で問題もあるので、どっちもこっちもあります。ただ私は、まじめにきちんと活動して、教育政策の策定に役立てるための必要経費、これは予算があっても良いと思います。例えば視察に行くのだって、3年に1回って誰が決めているのか知りませんが、必要に応じて行けば良いと思います。一番いけないことは、議員でも我々の業界でもありますが、「毎年行くことになっている」と。「今年は予算があるからどこに行こうか」と。これは最悪。私、よく同じ会議でも言っていますが、今、何に課題があって、何について研究しなくてはいけないのか。それについて、ここに研究に行ったらその課題についていろいろな情報が得られるとか。目的に応じてそういう視察をやっていくというマインドが重要で、そこがきちんと担保されるのであれば、非常に重要だと思います。必要経費というものをどこまで見ていくかということもあるけれど、やはり委員の皆さんが活動に必要なものは、ある程度はあった方が良いでしょう。新聞買うかどうかはあれだけれど、その辺はいろいろあるけれど、活動しやすい方法を何か考えた方が良いでしょう。その辺はどうでしょうか。</p>
滝教育長	長久手、日進へ視察に行ったのはいつでしたか？
長瀬子ども・子育て監	あれは、令和元年ですかね。
滝教育長	今年、草潤中学校へ行こうという話もしていました。3年に1回？自分の中では毎年行っていたような気がしたけれど。
長瀬子ども・子育て監	<p>私が来た時に3年に1回なので忘れないようにということで。</p> <p>たまたま神戸の方で研修があったので、皆さんにお知らせして、都合が合ったのが堀委員と奥村委員で、日帰りだけれど旅費を出せる余裕があったので、行っていたのが、令和元年。そのあとに教育長がおっしゃったように長久手と日進に日帰りで視察に行って、去年は行っていません。</p>
山田市長	<p>予算もあるので、1年に何回も行っているとは言いませんが、必ず何のテーマについて、どこに行って学びたいというのを、きちんと皆さんで議論してもらって、予算を組まなくてはいけないですけど、予算を使ってもらえれば良いと思います。目的があるから。先ほどみたいに、「予算があるから今年はどこに行きましょうか。事務局考えておいてください。」というふうになると、それはダメだという話になってきてしまう。「毎年こうやって決まっているから、今年どこに行きましょう」というものは、「毎年ではなくて、各年にしなさい」とって、どちらかというのとカットしていつています。それは悪い例です。みなさんにとって、研究が必要だということについては、必要な予算を組んで、やった方が良いでしょう。だから3年に1回とは言わず、一応毎年行ける状態にしておいて、その代わりに、行き先や研究内容については皆さんできちんと議論して、目的を持ってやってもらうという前提で、毎年分予算くんだったらどうですか。調査研究費でも何でもいければ。重要だと思います。</p> <p>それはどうですか。</p>
滝教育長	<p>良いことだと思います。財政がこういう状況（上昇傾向）なら良いけれど、こういう状況（下降傾向）をなんとなく忖度して、予算を少しずつ削らなくてはいけないという意識を持ってしまうのですが、市長としては必要なものは要望してくれと、最終的に自分が必要なものは認めていくというお気持ちは当初からずっとお持ちです。変な忖度をせず、是非こういうものがあれば事務局に言っていただいて、事務局で予算編成の元を作って、最終的には市長にお認めいただくという流れをとっていただければいいので、今の奥村委員がおっしゃったようなことも、市長がフォロー</p>



	<p>してくださった部分もありますので、毎年、1年おきなのか分かりませんが、必要ならば使えるような予算を是非要望していただけたらいいかなと思います。</p>
山田市長	<p>それからもう一点。検証というところで、専門的な立場から検証ということも、観点としては重要だと思います。昔は、教育シンポジウムというものをやって、それを検証の場にしていました。ところが、教育委員会と市長部局が、あるときいろいろと摩擦があって、そういうものが行われなくなった経緯があります。今、犬山は読解力の向上ということに非常に特化して、力を入れてやっているのですが、それをきちんと、まだ検証する段階にはなっていない、そこまでやりきっていないのですが、これからやろうとしている方向性の検証も含めて、そのような場を設けられないかと、むしろ私から教育長にお願いをしています。来年度にシンポジウムを独自にやれると一番良いのですが、学校現場も忙しいので、従来の教員の研修の時に合わせて企画をいただくということで、予定しています。奥村委員の言うこれまでの少人数や、2学期制の検証ではありませんが、今の読解力というところに特化した方向性の検証というものをやりたいね、という話はしています。それも必要に応じて重要だというふうに思っています。</p> <p>もう一点。その検証を、専門の人がやるということは重要ですけど、私はもっと重要なのは、その検証の中身であったり、誰かが検証をやる以前に、今やっていることの意義がきちんと発信されていないとダメです。誰にそれを実感してもらおうかと言うと、市民です。子どもであれ保護者であれ、市民です。その人たちに情報として共有されている前提で、みんなの目で検証していくということがまず必要だと思います。それで、専門家も検証をする。本になったって、それは一般の人にはなかなか見ないので、それを補完するためにもどう見せ方をしていくのかということが重要です。これは、私は以前から教育委員会にもっと見えるようにして欲しいと言い続けているけれど、まだまだ犬山の教育の取組みに関して見えるようになっていない。もっと言うと教育委員会だけではなくて、市役所の中でやっている事業についても、なかなか見えるようになっていない。こここのところは、ずーっと言い続けて、なかなかそうならないので、今、我々の部局の方でも専門の人材を入れてやっていこうという話をしています。</p> <p>そういう方向だよ、部長。</p>
鈴木経営部長	<p>そうですね、情報発信で。</p>
山田市長	<p>ですので、奥村委員の言ったことにダイレクトに合致しないかもしれないのですが、教育委員会がやっていることをもっともっと見えるようにしていく。実は良いことをいっぱいやっています。現場だってすごく頑張ってくれています。だけどそれが見えていない、残念なところがあるので、そこをやるのが非常に重要です。これからはデジタル社会だし子どもたちもタブレットを持っているので、いろんなことやりやすいと思いますから、是非、見える化をやっていただきたいと思います。これは私から再三お願いしていることですけど、我々もやっていくので、一緒になってやっていけるといいですね。</p> <p>ありがとうございました。他ありますか。</p>
滝教育長	<p>渡邊委員のももとの発想は、犬山市の教育委員会、学校を中心にいろんな良いことをやっているのだから、それをもっと発信してみんなに知っていただいて、犬山で子育てをしたいという、定住化を促進できたら良いというところがももとの発想でした。</p> <p>それに今、奥村委員がおっしゃったように、例えば検証、予算化もそうですが、市長からも「見える化」を図ったらどうだという話がありましたけれど、今年か</p>

	<p>ら、犬山市教育委員会の独自のホームページを作りました。今まではそれがなくて、学校を経由して見ていただくことしかできませんでした。できるだけそこにいろいろなことを載せるよう言っていますが、なかなか指導主事等忙しくて全部が全部やりきれない。「学校訪問でこういう状況が見られた」、「校長会でこういう議論をした」、「定例教でこういうことをやった」など、なかなか教育委員会の動きが見えにくいものですから、こういったものを「とにかく全部載せて発信をしろ」と言っています。まだまだ十分に機能してないなというところがありますし、先ほどシンポジウムの話がありましたけれども、当然外部に対して、「犬山はこんな取組みをしていますよ」ということを発信すると同時に、それ以上に内部の先生に、再認識をしていただく。そんな意味でも来年度夏の時期に合わせて現在市の教育講演会と教育研究会「市教研」という組織があって、毎年そこで講演会をやっているのですけれど、ぜひその場を使って、かつてのミニシンポジウムのようなもの、かつてのシンポジウムほど大きなものはできないかもしれませんが、来年度再開したいなという思いで進めているところでございます。</p>
<p>山田市長</p>	<p>はい。ありがとうございます。 他によろしいですかね。</p>
<p>出席委員</p>	<p>(意見等なし)</p>
<p>山田市長</p>	<p>私の方からこれからのこととして求めていきたいことは、冒頭にお願した危機管理です。これは災害ばかりではないので、やはりリスクに対する備えと、何か起きたときの対処、後のフォローだったりを含めて。これからは価値観も多様化しているし、課題も複雑化しているので、かなりテクニカルなことが求められてくる時代ですので、この危機管理というのは特に持っていただきたいです。例えば今のコロナでもそうですけれど、対策本部長は私ですので、教育委員会、いわゆる学校の現場であったり、教育委員会として意思決定をして考えたりということではなくて、対策本部として意思決定していくことがあるので、場合によっては有無を言わずということもあります。それが危機管理なので、その責任は私が負います。ですので、そういうところの基本的な認識も含めて、とはいえ現場と連携して私もやっていきたいと思っていますので、そういうことも含めてやっていけないと思いますから、危機管理というものは、平生の管理もそうだし本当の突発的な何か起きたときのことも含めて意識をしていただきたいなというのが一つ。</p> <p>見える化の話は何度も言ったのですが、見える化をどんどんやって欲しいということ。</p> <p>それから、学校のことに関しては、保育も絡んでくるかもしれないのですが、公立の学校だったり、子ども未来園だったり、そういうところで、今進められている既成概念と言うか、「今までこうだったからこれからもこうでなくてはいけない」という既成概念を一回ゼロにしてもらいたい。まっさらな状態でこれからの学校というのを考えて欲しい。それは先ほども出た草潤中学校の話、あれは不登校に関係する部分かもしれませんが。前もここで話題に出した麴町中。それをそのままこちらに置き換えて良いというものではないと思うので、そういう意味で言っているわけではなくて、どうも我々は、今まで積み重ねてきているものに囚われているので、一旦そこをもう少し離れたところから見て、「我々はこれからどうしていったら良いのだろう」ということを考えて欲しいです。それは学校の勉強に関してもそうですし、生活に関して言えば「ブラック校則」なんて言われていますけれど、例えば「ツーブロックがどうしていけないのか」。良いところもあれば、悪いところもある。そういう具体的なことをここであれこれ論議するつもりはないのですが、</p>

生活面に関してもそうです。そういったことをきちんと議論して、学校のあり方を考えていく。僕は、渡邊委員のおっしゃった学校の教育に対する取組みが、「犬山に住みたい」、「住み続けたい」という魅力になるという点は全く同感で、選ばれる自治体としては、「犬山ってこういうまち」というものがきちんとあった方が良いので、それはやっぱり教育施策というものは選ばれる自治体にとって非常に重要な観点です。それは他にはない犬山の魅力というものがどうやってできるかということだと思うので、そこをやはりブラッシュアップしていただきたい。それにはくどいようですが、見えるようにして。例えば給食の自校方式でも、少数派ですけど、少数派だから売りなのです。これは守るという意味でやっていますから、逆に言うと売りにして欲しい。だけど、現場すごく頑張っているけど、なかなかそれが見えづらい。なんとなくここに住んでいる人は当たり前で、そのありがたさが全然伝わっていない。ですので、そういうところがもっと発信されていく。他と違って、良いことをやっていることが、もっと露出してもいいのではないかと思います。学校に特化した話になりましたけど、私としては、そういうところがこれから教育委員会にも工夫をしていって欲しいし、私も努力します。連携して応援しますので、一緒にやっていけると良いなと思います。

今日、森先生に来ていただいています。公立の学校でものすごいチャレンジをされています。本来であれば、県立高校は統廃合の中にあって、「子どもが少なくなったから統合してしまえ」ということで、まさに犬山南高校として選ばれる学校になるように。森先生のリーダーシップでデジタル人材だったり起業する人材を育成する、そのための学校運営へシフトして、「選ばれる学校を目指すからここは残そう」ということになったので。森先生がいるから言うわけではありませんが、森先生の挑戦がなかったらあの学校は統合されていたと思います。やはり挑戦する姿勢、犬山南高校の取組みというものは、私はものすごく模範的だと思うので、ぜひそういうことを、地元の学校だから連携もしながら、お互い作っていけると良いなと思います。

はい、他によろしいですかね。学校だけでなく、歴まちも、文スポも、子ども未来もありますので。

あとはさっきの話と関連しますが、インフラ的なところが老朽化してきているので、今後、整備を予定している子ども未来園とか学校もあるので、その流れは着実にやっていきたいと思っています。今後の新しい子ども未来園も、久しぶりに新しいものを作るので、非常に重要です。これから子どもが過ごしていく空間をきちんと子育ての理念と合致した中で、どういう空間にしていくか。そこは非常に新しいものを作っていく中では重要ですし、「この保育園に通わせたいから犬山に住みたい」、「是非あそこに通わせて」と。器の立派さだけではなくて、その器の中に入っている魂を含めて、非常に重要なきっかけになると思うので、それを。南小もあるし、城東もあるので、そういうところは着実に我々もテンポアップしてやっていきたいなと思っています。

よろしいですかね、この件に関しては終わらせていただきますが。

せっかくなので、森先生、今後について。森先生のところもがんばってみえるので、もし良かったら犬山南校の取組みを紹介していただきながら、お話いただいても良いと思いますが。

森犬山南高等学校長

ありがとうございます。ご指名ですので少しだけ。

渡邊委員のペーパーを見て、確かにそうだなと思うところがたくさんあります。

市長もおっしゃいましたが、例えば2番の少人数学級。うちの場合は期せずして少人数になってしまったところが正直言ってありますが、それがなかったとしても、県から教員の加配が、正規教員も非常勤教員についても、割とたくさんついている方ですので、40人を一つの教室に入れて、という授業は一つもございません。大抵の学校は数学と英語だけ分けるのですが、うちは体育も、家庭科も分けている状況。ですので、担任も含めて生徒との距離が適切にとれる。どこが分かっている、どこが分からないか、微妙な表情も見て取れるということで、生徒の側からも教員の側からも、非常に評判が良いかなと思います。それを具体的な数値で、エビデンスをとれるかという話になると、これは難しいですが、指導のしやすさ、教員が抱える負担、保護者が持つ印象、生徒が持つ印象、印象ばかりで申し訳ありませんが、非常にいいかなというふうには思います。

それから、3番はまさにそのとおりで、市長が「選ばれる犬山市に」とおっしゃっていましたが、高等学校の現状としては、いかにして選んでもらうための選択肢にのぼるか。今は熾烈です。一つは皆さんも感じておられるかと思うのですが、私学に対する助成が非常に手厚いということがあります。私の個人的な考えですと、そればかりではなくて、正直言って、公立が今までのことを踏まえて少し胡坐をかいていたのではないかなと思うところもなきにしもあらずです。「愛知県は公立優位だからなんとかなるだろう」という思いがもしあったのだとすると、もうそういうことを言っている状況ではないと思っています。生意気な言い方になりますが、それは高等学校だけではなくて、中学校も同じような状況かと。実はこの間、私立中学校へ進学するための、いわゆるお受験するための塾の説明会に参加しました。申し込みはあつという間に埋まりますし、皆さん塾の講師の説明に熱心に耳を傾けてメモを取っていた。そういう状況です。2回あったようなので、これだけの人数がもう1回あるのかと。小学校3年生の親を対象としていましたが、すごい熱気でした。後でその塾の担当者に聞いたところ、昨年よりも今年の方が反響が良いということです。高校だけではなくて、中学校へ進むという点でも私立がかなりの幅をきかせている。その子たちは当然、私立高校に行くことになるわけですから、長いスパンで私たち公立学校のあり方を考えていく必要があると改めて感じたところです。うちがやりたいことというものが結局、ここに書いてあるとおりで。いかにして定住する人口を減らさないか、ということの一つの大きな目的にしています。高等学校がなくなると、私が試算したところ、シンクタンクが出した計算式があるので、それに基づいていうと、おそらく高等学校に通う世代ですと、5クラス分くらいが流出するといわれています。170人から200人くらいが他市町へ流れてしまう。流れるということは、おそらく戻ってこないということを意味しますので、流れたままということになります。そのためにはどうやって手を打つかということですが、国も普通科が面白くないから変われと言っていますし、県も変われと言っている。私は定員が割れているからあのようなことを言い出したわけではなくて、別の学校にしようが何かやろうとしたと思います。そこで、たまたま生徒の中にそういう可能性が見えてきたので、あれで行こうという決断をしたということです。月曜日も県庁に行って、県の幹部と話をしてきました。そこで民間の方と引き合わせていただいて、話をしてきました。反響はやはり大きいです。いろいろな形で犬山南という学校が、コロナの時代だからどの学校も閉じるのですが、オンラインなどを使って外に開いていく。現状を逆手にとると言うのでしょうか、そういう方向に変えていくことで手を打っていく。それから、教育委員会と市長部局との微妙な関係という話がありましたが、それはおそらく県の中にもあるので、県で言う

	<p>と知事部局が進めようとしている内容を教育委員会の中でも少し取り込んでいこうと。それを高校段階でやって、大学なり就職なり、知事部局が扱うところでも続けてやっていただく。こうやって将来につなげていくということも良いかなと思ったので、ああいうことをやってみよう。それがデジタルトランスフォーメーションなり地域課題を解決する中で、「こうしたらいいのではないか」、「ああしたらいいのではないか」ときちんと提案できる生徒、というふうに考えていったところで。つまり、犬山市を中心として、この地域をどうしていくのが生徒目線で良いのかということを見定められる生徒。関わったのだから、住んで責任を取ってほしいという生徒がその中から生まれれば良いかなと思います。</p>
山田市長	<p>ありがとうございます。皆さんからは良いですか。気軽に、何かあれば。特に無いようですので、議題の2つ目をこれで終わらせていただきたいと思います。</p> <p>続いて、4の報告ですが、「教育大綱について」です。大綱についても見直しの時期が来ているのかな。事務局から報告をお願いします。</p>
事務局 小枝	<p>事務局から説明させていただきます。</p> <p>資料2の上段、「大綱の位置づけ」にもあるとおり、大綱は、第5次総合計画に掲げる「目指すまちの姿」を実現するために、犬山市の教育について、目指す方向性や担い手となる様々な主体の役割、取組の方向性などの根本的な方針を定めたものとなっています。</p> <p>2つ目の◇、資料では「大綱の位置づけ」とありますが、これは誤りです。正しくは、「大綱の期間」です。誠に失礼いたしました。</p> <p>その大綱の期間は、第5次犬山市総合計画後半期とあわせて、平成29年度から平成34年度、令和4年度までの6年間となっています。</p> <p>現在、第5次総合計画の次の総合計画の策定に着手しているところですので、同時期に期間が満了となる教育大綱について、今後の予定、スケジュールを報告させていただきます。大綱につきましては、先ほどお伝えしたとおり、根本的な方針を定めたものとなっていることから、現時点での判断では、大きく変える必要はないのではないかと考えているものの、まずは検証、振り返りを行ってから、皆様にご検討いただきたいと思いますと考えております。</p> <p>その前提で、下段のスケジュール案をご覧ください。</p> <p>まずは、今年度3月から4月かけて、検証資料を準備させてください。キリがいいところで、今年度末時点の資料、データを用いたいと考えております。作成した資料は、令和4年度第1回の会議に提出し、まずは大綱の検証結果をご報告します。時期は、来年5月から7月を予定しています。第1回の会議では、検証結果を踏まえて、現在の大綱の見直しの要否と、見直しが必要となれば、その内容についてご意見をいただき、第2回の会議では、事務局が作成した素案を提出します。その後、修正期間を経て来年度末に完成する予定です。修正が必要となった場合には、議論の進捗によっては、会議の追加も必要となるかもしれませんが、ご協力をよろしくお願いいたします。</p> <p>このようなスケジュールをベースに、進めていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
山田市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>スケジュール的なことですので、内容については今後の議論の中で協議していくということかと思いますが、どうでしょう。今の報告について委員の皆様からご意見等ありますでしょうか。</p>

出席委員	(意見等なし)
山田市長	<p>よろしいですかね。</p> <p>中身については議論していきますが、忘れないように言っておきますが、私もこの教育大綱を作ったときは、どちらかと言うと前に向かっていく意識が強かったので、先ほどの出した危機管理など、そういうことは今回のコロナも含めて、非常に重要な観点だと思うので、大綱にない方がおかしいくらいだと思うので、やはり危機管理に関する何らかの記述というのは必要だと思います。それから、先ほどからも議論が出ているように、やはり見えるようにしていく。どれだけ良いことをやっても、それが住民にきちんと共有されていないと、それは意味がないので、これも情報共有や見える化という点は、非常に大綱を運営していく重要な観点です。大綱自体が見えていない。だからそういう意味でのみ見える化もプラスαしていく必要があるのかなという気はしています。それを忘れないように控えておいてください。</p> <p>では、この件についてはよろしいですか、</p>
出席委員	(意見等なし)
山田市長	<p>続いて、自由討議です。</p> <p>この際、皆さんから意見なり問題提起なりしていただければと思いますが、いかがでしょうか。</p>
滝教育長	まだこの場で発言していない2人の委員、何かせっかくの機会ですから。
小倉委員	<p>調べて、データを持ってここに来られてないので、言いづらいなと思ってしゃべれていませんでした。</p> <p>今、必要とされている教育現場の中で、必要とされている人が、あとどれくらい足りていないのかなということが知りたい。具体的に言うと、学校に行けていない子たちのゆう・ゆうのところ、「勉強を教えてくれる人が欲しい」という話がこの間出てきて、「では実際どうなのか」とみんなで見に行こうと話をしていたところですけど、そういう人が必要なのかもしれない。学校の現場の中で、この子は違う個性を持っているということで支援が必要というところは、人をつけていただいたり、手配をしていただいているところですけど、そうではなくて、グレーなお子さんに対して、先生たちがその子たちを活かしていきながら、一緒に授業を進めていこうと努力はされているけれど、実際のところは本当にそれで良いのか。先生は「もっと助けて欲しい」と思っているけれど、言えているのか言えていないのか、というところを調べたいです。個人的な思いかもしれませんが、感じています。学校の会議の中で、「このクラスは大変だ」という声は自由に出せているのか。校長先生なり教務主任に出せているのかというところも知りたいですし、それが意見として学校からこちらに上がってくる道があるのかというところも一緒に検証しつつ、先生たちが心を病んでお休みをされることも現実で、それは良くない状態だと思っているのですけれど、その先生の話聞いてあげるのが、学校の中だけではなくて、違う立場の人であったり、何らかの手配をしていってあげないと先生自身の人生も壊れてしまうのかなと。先生をサポートする、何か違う形のものを作っていくかないといけないのではないかなと。</p> <p>そういうことも考えて今日話を聞いて、私たちがもっと調べて、まとめていく作業をしていかないといけないのだなと感じました。必要に応じて、そのことを具体的に提案していかないといけないのだなと感じました。そのように今思っています。</p>
山田市長	ありがとうございます。

	<p>それは非常に重要で、人の配置や現場を担っている人の心というのは、我々はそこを予算的にカバーしていくことになるのだと思います。どこまでも、無限にできるわけではありませんが、何て言うのか、「隙間になっているところがないか」などを気にしていかないといけないし、今は子や家庭によって背景は様々です。で、画一的な対応ですべてが解決するとは思わないので、専門の立場の人とかのそういう人にも積極的に関与してもらったり、そういう人たちを何らかの位置づけで配置したり、そういうことも必要になってくるのかなとは思っています。それを現場のニーズに合わせながら、我々としては必要な体制づくりや予算措置を考えていくということになると思いますので、委員の皆さんが現状を把握されて、そういうことを皆さんで議論しながら、作っていくということは理想だと思います。そうなれば一番良いと思いますけれど、何かあれば声としては聞かせていただければと思いますし、その中で我々も対応がスムーズにできるようにしたいと思います。ぜひ皆さんでそういうことを検証いただけたらと思います。</p> <p>はい、木澤さんは良いですか。</p>
木澤委員	<p>任命を受けて、ちょうどこれで1年経ちました。知らないことも多いので、新聞などの記事を見ながら、自分がどのようなことに関心があるのだろうということ、一年経って、ノートを見たときに、私は不登校であったり、イジメだったり、なかなか声に出せない人たちのところに関心があり、今まで関わってきたのだなということ、感じました。</p> <p>どんなことに関わるのか分からないまま1年経ちましたので、「あと残りの任期を私は何をすれば良いのか」を今日ここにきて感じました。例えば、新聞にも載っていましたが、ニトリの社長さんは障害があったけれど、今はこういう生き方をしている。今、悩んでいるお母さんの思いというのは、認定を受ければ受けたで、とても苦しんでいる。周りからも責められたり。「そんな状況が日常の中で起きているのだ」ということを切に感じます。そうした思いを、有識者や教員だけではなく市民への広報もすると、「こういう子がいても良いんだよね」、「こういう子たちも立派になるんだよね」と、まさに優しいまちになってくるのではないかなと感じています。</p> <p>この間も小牧、春日井の人の犬山での子ども事業で、ドローンが大変人気があり、午前、午後とも満員だったそうです。新しいもの、今に合ったものも取り入れながら、子どもたちが楽しみながら未来に向かっていく。被災地の状況をドローンで、東北の人が会社を立ち上げていますが、楽しみながら学んでいける方法があるのだなと感じています。忌憚のない考えや意見を伝えることができる寛大さがある犬山だと良いのかなと感じました。</p>
山田市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>小倉委員の話とつながるかもしれませんが、いじめや不登校の話もあって、本当に多様化してきているので、どうしてもそこに、いじめや不登校以外にもあるかもしれませんが、きめ細かくカバーしていこうと思うと、やはり画一的な対応では限界があるので、私は、既成概念に囚われないというところ、今までだと「学校に行きなさい」という前提があったりしますが、場合によっては、そういうものを取り払ってものを考えないといけない事案が出てくるので、これから体制だったり、運営の在り方を考えていくとき、そういう従来の当たり前だと思われてきたスタイルも、少し変えていく勇気も必要だと思います。そういうところは、皆さんの目から見ても、大胆に議論していただけるといいなと思いますし、くどいようですが、既成概念、前例にも囚われない、まったくゼロから新しいものを作る。草潤中学校、た</p>

	<p>またま私も市長の集まりがあったときに、実際現場で校長先生にも話を聞かせてもらいましたが、最近新聞なんかでも取り上げられている、イェナプランをなんとなくベースにした感じでしたので、「そうですか」と聞いたら、「それも参考にしています」とおっしゃっていました。モデル校は名古屋でも岐阜でもやっているもので、そういうもの、先ほどの麴町中もありますけれ、全国にはいろんな事例もあります。不登校などもそうですけれど、通常の学校の運営も含めて、そういう事例も研究いただきながら、これからの展開を考えていくと、非常に豊かになると思いますので、そういうところをやっていただきたいし、やはりいじめもそうだし、青少年の問題も、木澤委員はその分野で青少年の問題もやっていただいていたので、広くそういうところも考えていただけるとありがたいなと思います。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>せっかくなので奥村委員、渡邊委員も、堀委員も、何かあれば発言してください。</p>
<p>奥村委員</p>	<p>いろんな問題点がたくさんありますが、例えば、部活動が丸ごと学校の先生の職務でなくなったら、すごく大きく中学校のあり方が変わったり、先ほどの校則自体もいろんな問題があったりする。あと定期テストの問題とか、これもいろんな事例があって、麴町中学校は定期テストがないとか。そうなる学校がどんなふうになるのか、</p> <p>実は全部事例の中では、大人は出てこなくて、生徒たちが先生との話によって変わっていく。部活動に関してはまた別ですが、定期テストや校則などはそういったもので、大人が考えているものではないから新しいものが生まれる。我々だけで考えているからこれまでの固定観念で、どうしても変わることがないというところが、私がいろいろ見てきた中での感じですが、隣の一宮市で制服を決めるときには、生徒とのシンポジウムを行って、生徒たちからの意見を募って作っていった。犬山市も各学校でそういうのを募ってやっていったのですが、そういったところが今後につながる。やっぱり我々がこうだと思っているものから大きく変わってくるのかなと。「こういうものもあるのだな」というものと。かといって、私個人の考えとしては、勉強は、子どもが考えるとやりたくないだけかなと。こんなことを言うてはいけないのですけれど。ですが、それが今度は大人の新しい知恵によって、どうやってそれが楽しいものになるのかなというものを考えることが、やはり先生、教師、教育者にとって、大人にとっての一番するべきことかなと思うので、そういったところに集中するためにお手伝いできる、たとえば先ほどの人が足りないのは、先生が先生であるために、その別のところの業務を補ってあげることをしてあげるのはすごく大事なことかなと思いました。先ほどの補足においては生徒が考えていく。では、大人が見てそれが良いかどうか。今の常識と昔の常識は変わっている。私この髪型、完全にツーブロックですが、「アウトですか」という話です。そういう意味でも、「ツーブロックでも良いのではないか」とは、私も感じています。いろいろと新たに変わっていくということは非常に難しいことで、規律がなくなることともまたいけないと思います。制服が着られない、着られるという問題もまたいろいろあったりしますし、そういったところもまた、我々が行うことは今ではなく、大人になって社会に送り出せる人を育てることが、教育という一番の使命なので、そういったことができるようなことはしていきたいなど。そういったようなお手伝いができればなというふうに思っています。</p>
<p>山田市長</p>	<p>渡邊委員いかがですか。</p>



渡邊委員	<p>私が思っていることは1つ。選択できる子どもたち。犬山市にいる子どもたちが自分たちの力で、選択できるようにしてあげたいと思います。そのためには、ソフトの部分、ハードの部分で選択されるような仕組みだったり、学校だったりを作っていくことがすごく大事ななど。既成概念に囚われるということであれば、もっと、例えば高校がこういうことをやっています、ということを経元の学校にもっと伝えていく、小学生に対して「中学校ってこういうところだ」ということを、1日ばかり行くのではなく、定期的にやっていく中で、子どもたちがしっかりと「中学校でこうやっていこう」というふうに見える。このままでは子どもたちの将来が見えないですね。そういう選択できる、選択されるものをこれから教育という部分で作っていったら良いというのは思いました。以上です。</p>
山田市長	<p>はい。ありがとうございます。 堀先生、いかがですか。</p>
堀委員	<p>2つあります。1つは、公立に胡坐をかくという話がありましたが、私はやはり保育園のことが一番詳しい。やはり新しい考え方、新しいことを取り入れていくためには、民間に入ってもらいたいということ、なるべく早くした方が良いのではないかなと思います。</p> <p>もう一つは、犬山の人口を増やすということにすると、子育て支援、保育園、子ども未来園が充実して明るく豊かな保育をすることが一番大事だと思います。それでPRにもなると思います。今、実際、保育士不足や保育士が病むといったことが非常に多いです。これは全国的にどこもそうですけれど、そのために事務をなくすことは本末転倒で、保育を良くするためにどうするかということを見ると、働き方改革、地域の人に入っていただくなど。この間、こういうのはどうかと、子ども・子育て監のところを持って行って話をしたり、小倉委員や木澤委員にもいろいろ相談に乗っていただいて、保育者の継続できる、もっと余裕ができる、体制作りを私は考えていきたいなと思っています。私、ここでお世話になってから何年も経ちますが、ずっとそのことの研究を細々としてきた中で、やはり大元のところを変えていかないと難しい、個人の力でどうにかなるものではないというのを感じますので、新しい提案をさせていただきたいと思います。</p>
山田市長	<p>ありがとうございます。 校則に関しては、子どもが考えるということも面白いなと。一回どこかでやってみると良いかもしれない。「自分の学校の校則を一回考えて」と生徒に。どこかの中学校でも良いけれど。</p>
滝教育長	<p>学校自体には投げかけてあります。ただ、その方法はいろいろあるものですから。進捗状況と今後の見通しについてはまた。</p>
山田市長	<p>彼らは彼らでお互いが気持ちよく生活していくには、「全部ルール取り払ってしまえ」ではなく、「必要なルールもあるよね」ということは意外と考えているような気がします。逆に私は興味があります。いろんな子どもたちがルールを考えてくれるだろうって、そういう観点から考えていただけるといいなと思います。</p>
奥村委員	<p>最後に一つだけ。</p>
山田市長	<p>どうぞ。</p>
奥村委員	<p>英語教育に関して、今、大学の入試に関して英語の割合が非常に高くなっています。英検よりも今はTOEICやTOEFLといったものに移りつつありますが。それから大学へ進学するには、全て英語ができるかできないか、が非常に問われていて、いくら理科や数学、社会や国語ができて、英語ができないがために全くダメというところがあったり、国立大学なんかでいくと英語の採点が半分、1000</p>

	<p>点満点中500点が英語、という比率になったりもしています。今、大学の入学率が60%。今後80%に上がっていくという文科省の方針が出ている。高校からさらに大学へと出されている中で、英語の学力はいろいろなところで問われていると思います。犬山として、読解力とともに、英語という部分もとても大事に。日本人であるがゆえに、母国語ではないからすごく不利というのも納得できないのですが、どうしてもその辺が。非常に進んでいる市、例えば京都で普通のチェーン店に入ったら、若いお兄さんの定員が英語で普通に対応します。これはこの辺の普通のお店ではなかなかない。そういったところは国際化に向けての、まちの取組みが非常に大切かなと思います。一つ隅に入れていただけると、ありがたいなと思います。</p>
山田市長	<p>申し訳ないです、そこは私、全く考えが違います。</p> <p>私は英語ができるという力も含めて、読解力をきちんとつけていくことが、そこにつながっていくのであって、基礎教育においては、それをきちんと土台を作ることが大事。もっと言うと、英語が話せるから優れた人間だということではない。「英語を話して何を伝えるか」が大事であって、そのために我々がどういう人であるかということが大事です。英語が話せるのは手段でしかないので、それは早く「翻訳コンニャク」でも作ってもらって、同時翻訳機ができれば解決する話。私は、そんな無駄なことにエネルギーを使う時代が早く終わって欲しい。英語がもちろん無駄だとは言いません。英語が直にしゃべれてコミュニケーションが取れればそれは素晴らしいことだと思うし、決してそれを軽んじているわけではないけれど、その前にある「人としてどうあるべきか」というところをきちんと作った上で、そこにシフトしていかないと、目的と手段がぐちゃぐちゃになってしまって、私は決してそれは日本のためにも子どもたちのためにも、もっと先の時代読んでも、そういうものは少し私は考えが違います。ですので、奥村委員がおっしゃるのは、もちろん手段としての、英語も決して全否定するつもりはないのだけれど、「どういう積み重ねで人を育てていくのか」。我々が、「基礎自治体の役割としてやっていくところ、何が一番重要なのか。」ということ、そういうあんまり、目的と手段をきちんと考えて組み立てをしていかないと世の流れに振り回されない方が良いこともあるのではないかなど。それは私の考えです。それは、一致しないことがあっても良いので、そのためにここで議論しているわけですから。全否定する気はないけれど、少し違うところもあります。意見としては分かりますので。「全く英語をやらなくていい」ということを言っているわけでは決してないですから。英語を使いこなして、この人が日本人として、人として素晴らしい価値観を持った人だなということが、海外の人にも伝わる人でないと。「英語をしゃべっているけれど、いい加減だな」という人間でもいけないと思うので、それには土台になる部分は重要かなと思います。英語を学ぶにも、そこはきちんとしておいた方が、伸びしろがあるような気がします。まあいいです。それは少し考えが違うところもあるので。ここで白黒つけるとかそういう問題でもないと思うので。意見として承っておきます。</p> <p>選択できる子どもにしていくという、渡邊委員がおっしゃったところも、子どもたちをどう育てていくかということでは、重要だと思うので、それも踏まえてこれから反映していけたらと思います。</p> <p>それから、堀委員がおっしゃった民間というキーワードが出ましたし、保育士をどうやってサポートしていくかということもあつたと思うので、そういうところはいろんな人を巻き込んだりも重要ですし、その魅力を高めていくことは、選ばれる自治体としても非常に重要な観点ですので、そこは一緒にそういう魅力づくり</p>

	<p>のために頑張りたいと思うので、提案も期待しておりますので、是非またご指導ください。</p> <p>それから、私も皆さんの話を聞いていて、いろいろ感じたことがあるので、述べさせていただきます。どうしても、学校など、そういうところにここが特化してしまっています。だから、いわゆる歴史まちづくりの展開をどう考えていくのか、文化スポーツの分野についてどう考えていくのか、ということは、「専門だから意見を言う」、「専門外だから言わなくていい」、そういうことではないと思います。私だってそんなに知識があるわけではないけれど、「こういうまちづくりをしたい」と言って各課に反映したりすることもあります。その辺のところを、皆さんもまずはいろいろ現状も知っていただいて、議論して欲しい。歴まちの分野でも、非常に犬山は地域資源が豊富です。単に今、保存というだけでなく、それを活かしてどのように展開をしていくのかということが求められていますし、あるいは今、犬山城のこともそうですけれど、やはり文化財として整備していくことも、もう一方で重要なプロジェクトになってくるので、やはり犬山にとっても重要です。ですから、歴史資源というものを活かして、どう展開していくのかということ、ぜひ皆さん、現状の取組みを踏まえて、「こんなことをやっていくと良いぞ」、「こういうところは変えた方が良いんじゃないか」ということ、そういうことを本当は議論したい。あと、文化スポーツ、文化もスポーツもそうですけど、私はこれから課題になってくるものは担い手だと思います。特に文化やスポーツの分野というものは、行政主導で行くよりも、民間のいろんな力と連携していかないと、充実した展開につながっていかないとと思うので、文化に関する人材、スポーツに関する人材、新しい人材もだんだん出てきてはいるので、そういう担い手の掘り起こしと、施策展開というものがバチッとあって、上手く回っていくような仕掛けをやっていかないといけない。私が気づいたところで、担当課に相談したり、お願いしているけれど、ぜひ皆さんもこれからの文化施策であったり、スポーツ施策というものについても、担い手というものが、これからこの分野で重要ではないかと思っているので、そういうこともいろいろ政策につながっていくと良いなと思っています。少しとりとめのない話をしましたが、歴まちだったり、文化スポーツだったり、そういうところもまた議論していきたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>一通り意見をいただいたので、自由討議はここまでとさせていただきますがよろしいですかね。</p>
出席委員	(意見等なし)
山田市長	<p>では、終わらせていただきます。</p> <p>5のその他について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局 小枝	<p>次回の会議について連絡します。第3回の総合教育会議は、2月に開催する予定です。日時に関しましては、定例教育委員会の前後の時間を利用して教育委員さんと相談して日程調整等をしたと考えておりますのでよろしくお願いいたします。</p>
山田市長	<p>それでは、議題は以上ですので、皆さん、熱心にご議論いただきありがとうございます。</p> <p>これを持ちまして、総合教育会議を終わらせていただきます。</p> <p>皆様、本日はありがとうございました。</p>
全員	ありがとうございました。
< 閉 会 >	